

会派代表質問

市民の皆様への安全・安心を守り
住み続けたいまちづくりを目指し

公明党

引問 真理子 議員



問 体育館の避難所環境について
近年全国的に猛暑が厳しく冷房機
器も含め、学校施設の防災機能強化
が各自治体に求められております。
どのような対応を考えているのか
伺います。

答 小・中学校体育館を避難所とし
た場合の熱中症対策としましては、
現状では風通しをよくするための扇
風機設置や小まめな水分補給を避難
者に呼びかけることとしております。
なお、高齢者や乳幼児など避難者
等の状況を勘案し各避難所の施設管
理者と協議の上、エアコンが使用可
能な教室を利用することとしてます。

また、災害の規模に応じて優先し
て開設する中央公民館や保健文化セ
ンター、大網白里アリーナ、中部コ
ミュニティセンター、白里公民館に
は空調および非常用電源設備が設置
されておりますが、異常気象による
災害が懸念される中、避難所の開設
運営については、状況を踏まえつつ
適切に対応してまいります。

問 応急給水栓の設置について
大規模な災害などが発生した際、
大きな問題となるのが水の確保です。
東日本大震災でも被災された多く
の方が水を求め、給水所に長時間並
ぶことを余儀なくされました。

本市でも4年前の台風災害にはポ
ンプ車が出動しましたが、高齢者の
方は給水所が遠く取りに行けず、指
定避難所の小・中学校に応急給水栓
を整備している自治体では、災害時
には非常に有効なものと考えます。

市内小・中学校受水槽への応急給
水栓の設置について伺います。
答 市内の水道施設が通常通りの給
水が行えない場合においては、大網
白里市応急給水マニュアルにより市

関連質問

秋葉好美 議員



問 市職員の心の健康・メンタルヘ
ルスについて伺います。

①ストレスチェックやストレス予
防、また産業医等の体制について、
②メンタルヘルス不調について、③
メンタルケアの必要性について、以
上3点についてお聞かせ下さい。

答 正規職員および勤務時間が週29
時間以上の会計年度任用職員を対象
に年1回ストレスチェックを実施し
ています。ストレスチェックの結果
高ストレスと判定された職員につい
ては、産業医による面接指導を受け
るよう推奨し、千葉市町村職員組
合や厚生労働省などが設置する相談
窓口を紹介して早い段階で相談する
よう周知を図っております。そのほ
か、時間外勤務が1か月平均80時間
を超える長時間労働を行った職員に
ついて、産業医による面接指導の
推奨を実施しており、長時間労働に
伴うストレスの軽減、ストレスに伴
う心身の不調を予防する体制の構築
を図っております。なお、産業医に
つきましては、法令に基づき、衛生
委員会の委員として、職場巡視によ
る労働環境の改善、専門的知識に基
づき助言を頂いています。

続いて、メンタルヘルス不調への
対応ですが、効果的な対応を図るこ
とを目的に、本年3月にメンタルヘ
ルス不調者への対応方法をまとめた
冊子を、各課に配布し早い段階で対
応しています。

最後に、メンタルケアの必要性に
ついては、行政課題に的確に対応し
市民ニーズに応え、職員1人ひとり
の能力を十分発揮し、心の健康づく
りが重要であると認識しております。

その他、市職員の働き方改革につ
いて、社会教育施設と社会体育施設
について質問をさせて頂きました。

関連質問

上代和利 議員



問 広報紙の新聞折込み部数、郵便
配達部数、公共施設への配布部数に
ついて

答 新聞折込みが10,835部、
郵送による配布が約400部、公共
施設や大網駅、スーパー等への備え
置きが、約2,600部です。

問 広報全戸配布について
答 新聞購読者が年々減少してきて
いる中、全戸配布は、全ての世帯に
届けることができる配布方法である
と認識しています。

ポステイングによる全戸配布につ
いては、コスト面の課題と共に、配
布完了までに数日を要することなど
から、実現に至っていません。

広報紙については、新聞折込み、
施設の備え置きなどのほかにも、多
くの選択肢の中から利用者の方々が
最適な方法で情報が入手できること
が好ましいと捉えており、全戸配布
についても引き続き研究していきたく
考えています。

その一方で、近年ではスマート
フォン、タブレット等の端末が普及
してきていることから、将来的には、
現在の紙媒体の情報提供から、電子
媒体を主体とした情報提供への移行
について検討を進めてまいります。

他に、子ども議会再開について、
白里海岸の観光プロモーションにつ
いて、産業道路の植樹帯の植栽活動
について、空いている植樹帯に対し
ての考え方について、軟骨伝導技術
を用いたイヤホンの市役所窓口設置
について質問させて頂きました。



個人質問

市役所や議員は、市民ひとり一人の
幸せのために存在しているのだ

石渡 登志男 議員



議員になってからもうすぐで12年。
そういう中において、石渡とお通
信は平成23年12月から発行し続け、
8月末現在で「第552号」となっ
た。今では数百部という通信を市民
の方々がお読みになっている。この
12年間、通信にて私の1週間ごとの
議員活動や徹底した市の情報開示を
市民の皆様方にお伝えしてきた。

問 防災対策について、災害時の避
難生活における段ボールベッド数は
どうなっているのか。自前で用意す
べきと思うがそれについてはどうか。

答 現在市が備蓄している段ボール
ベッド数は5個です。災害時におけ
る確保ですが段ボール事業者と締結
しました。段ボールベッドの追加購
入は今後検討したいと考えています。

段ボールベッドは自前でもっと用
意が必要。業者と締結していても課
題が多くすぐに使えない。市民は4
万8千人以上いるのに、たったの5
個、心許ない。そこまで言うのには
理由がある。委員会の視察で行った
広島県の土砂災害において、ある避
難所生活の23人を検診した結果、65
歳以上の6人に血栓が見つかったと
いう。これが移動し脳の血管に詰ま
れば脳梗塞となるが、段ボールベッ
ドはそれを防止できる。災害で助
かって、避難所で亡くなるというこ
とは絶対あってはならない。本市に
5個しかない段ボールベッドはもっ
と増やしていくべきだ。

問 高齢者の見守り活動はどのよう
に行っているのか。

答 専門職員による見守りや、緊急
時の対応に不安を持っている方に対
しては「緊急通報装置」を貸与して
います。

問 では「緊急通報装置」をご利用
している人数は。また、どのように
市民にお知らせしているのか。

答 現在262台を貸与しています。
広報紙や窓口でのパンフレットの配
布等々、より多くの方に周知したい
と考えています。

どんなにいいものでも高ければだ
めだ。本市の場合、安い。住民税が
非課税の高齢者ならば月に200円、
課税の方でも400円。ボタンを
押すだけでサポートセンターへつな
がり救急車の手配や、また連絡が取
れない場合は警備員が自宅に駆けつ
け安否確認を行ってくれる。

私はもっとご利用していただくべ
きだと思っておりますので、担当課も努
力していただきたい。

問 ヤードについてだが、千葉県が
その数全国トップであり、約43パー
セントを占めている。本市は駐車場
の街、太陽光発電の街、さらに注意
しないとヤードの街になり兼ねない。
法律に基づいて行っているればよいが、
業者によっては問題もある。

本市には主だったヤードは何か所
あるか、さらに市民からのクレーム
や法律違反の対応はどうなのか。

答 市内に5か所把握しています。
市民からは焼却行為、屋外での不適
切保管、騒音や振動への不安の音が
寄せられています。廃棄物処理法に
基づく指導を行っていますが、騒音
や振動については明確な法規制がな
いので、現地確認をし、山武地域振
興事務所と情報共有しています。

千葉市は県警と組み、指導強化を
図った。市民から何かクレームがあ
ったら真摯に対応していただきたい。
さらに、ヤードに関する条例制
定も検討すべきだ。住民の生活環境
が破壊されてはいけないのだ。